



2024. 9 No. 102

- ・北海道産木材の需要拡大に向けて（資源活用第一課）
- ・再造林及び保育経費の抑制と造林作業の省力化・軽労化に向けて（十勝西部森林管理署）
- ・こんにちは森林官です！（鹿追森林事務所）
- ・若手職員のコーナー（網走南部森林管理署）
- ・北海道森林管理局がイベントに出展しました（MIKASA AMUSEMENT PARK OUTDOOR WORLD 2024）



北海道産木材の需要拡大に向けて

森林整備部資源活用第一課

森林は、国土の保全や水源のかん養、生物多様性の保全等、様々な公益的機能を有していますが、近年では地球温暖化の防止の観点から二酸化炭素の吸収源としての期待も大きくなっています。

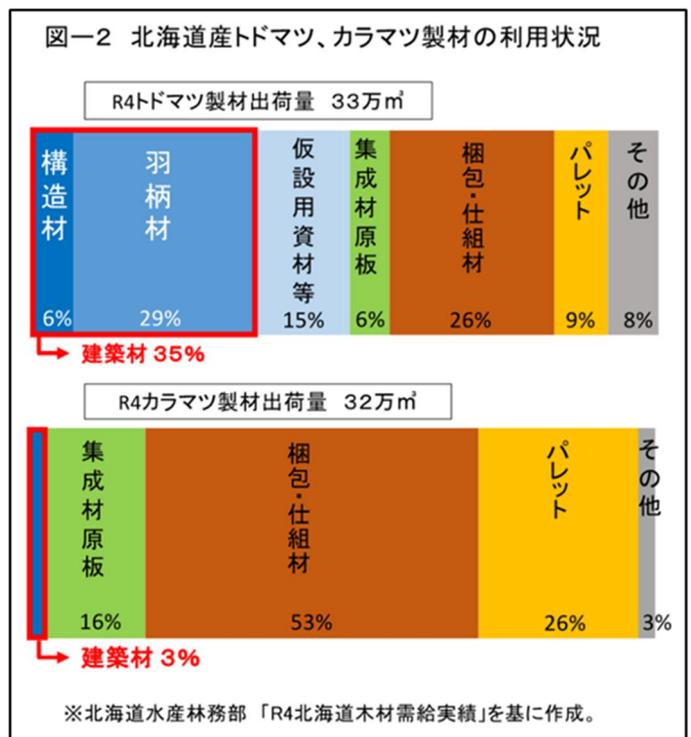
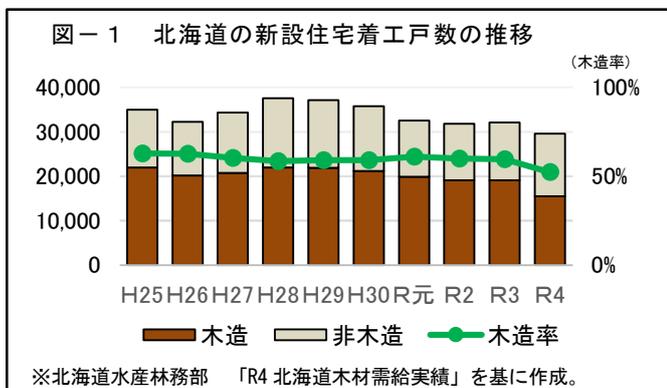
森林の樹木は、大気中の二酸化炭素を吸収し、炭素を貯蔵する働きがありますが、人工林の高齢化等に伴い、二酸化炭素の森林吸収量は減少傾向で推移しています。

このような中、「2050年カーボンニュートラル」の実現に貢献するためには、「伐って、使って、植えて、育てる」という、資源の循環利用を進めながら森林整備を図るとともに、木材利用も拡大していく必要があります。

また、森林から搬出された木材を建築物等に利用することにより、炭素を長期的に貯蔵することができることから、地域材の建築材利用は大きな意義があるといえます。

これまで、木造の建築物は1～3階建ての低層住宅が約8割を超えていますが、全国的に人口の減少や資材高騰などによって、住宅着工数は減少してきており、北海道においても同様の傾向となっています（図-1）。

また、北海道内における建築材については輸入材の利用が多く、道産材については製材（特に建築材）としての利用が低位（図-2）であり、道産材の利用促進、高付加価値化には、住宅に加え、非住宅建築物の木造・木質化による需要の拡大を進めていかなければならない状況といえます。



道産材を利用することは、北海道における林業の活性化、木材生産から加工、消費までの経済効果、また、生産地から消費地への輸送の効率化や低炭素化等のメリットがあります。そして各地域材を利用して建てた建築物は、その地域のシンボリックな存在・空間としての価値が生まれ、建築主や施設利用者の愛着が深まることもあり、これからの積極的な利用が望まれます。

北海道の森林面積は、554万ha（うち北海道森林管理局所管国有林は304万ha）で、これは、





木NINARU BLDG (札幌市中央区)

- ・ 建築主：株式会社Beppo Corporation
- ・ 構造：鉄骨造（一部木質ハイブリッド構造）
- ・ 規模：地下1階、地上10階
- ・ 設計者：株式会社アトリエオンドー級建築士事務所
- ・ 施工者：熊谷組・住友林業共同企業体
- ・ 敷地面積：139.05㎡
- ・ 延床面積：1,152.02㎡



木質ハイブリッド集成材

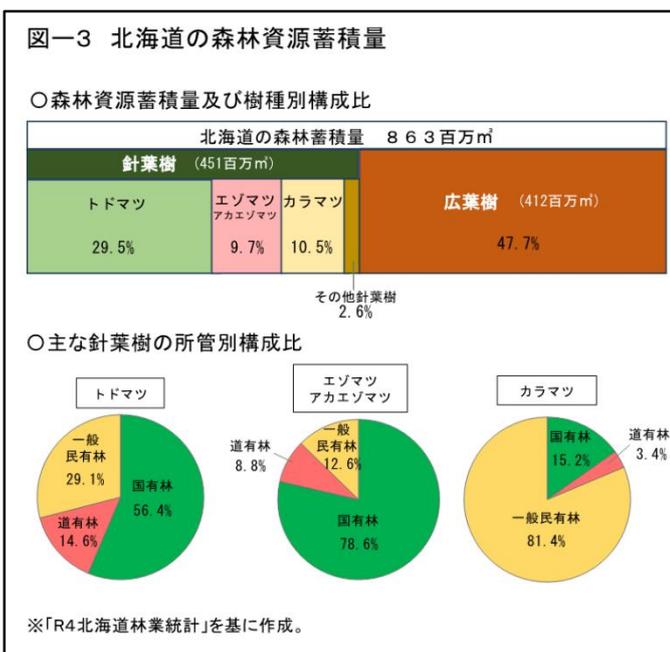
北海道産カラマツを活用した高層商業ビル。都市部におけるビルの木質化を図るため、7～10階の1時間耐火構造部分に木質ハイブリッド集成材を採用し、その被覆木材としてカラマツを利用している。構造躯体の木材使用量は39.9㎡、炭素固定量は31.8t(CO2ベース)で、これは敷地面積の約7.2倍にあたる広さのカラマツ林が吸収するCO2量に相当します。

(写真提供：住友林業株式会社)

北海道の土地面積の約7割、全国の森林面積の約2割を占めています。また、森林資源蓄積量（図-3）は863百万㎡と豊富であり、この豊かな森林の持つ多面的機能を持続し充実させながら、循環利用できる資源として、トドマツやカラマツなどの道産材を持続的かつ安定的な供給と利用を図ることが重要となっています。

北海道森林管理局では、令和6年度重点取組事項の取組の一つである北海道産木材の需要拡大に向けて、関係機関や関係団体との連携・協力体制を構築して需要拡大を図っていくとともに、国有林材の安定供給に努め、民有林と連携した協調出荷等の実施に必要な条件及び環境整備を進めています。

毎年10月は「木材利用推進月間」となっています。この期間のイベントの一つとして10月17日から31日まで北海道森林管理局1階のウッディホールにて道産材利用推進に向けた展示会を実施しますので、機会がありましたらお立寄り下さい。



地域課題の解決に向けた取組

再造林及び保育経費の抑制と造林作業の 省力化・軽労化に向けて

十勝西部森林管理署

【はじめに】

十勝西部森林管理署は、十勝平野の西部に位置し、十勝流域1市5町2村に広がる約14万haの国有林を管理経営しています。管理面積のうち、約35%（約4.9万ha）が日高山脈襟裳十勝国立公園に指定されており、十勝平野の広大な田園風景と雄大な山岳景観のコントラストが特徴的です。

【地域課題】

管内の人工林は、その多くが森林資源として利用できる時期を迎え、伐採後の再造林の増加が見込まれます。伐採後の再造林を確実に進めていくためには、初期投資や労働力の確保が必要であり、伐採と再造林を安全かつ効率的に行うための機械作業によるコスト削減及び作業労力の軽減が地域の大きな課題となっています。

【課題解決に向けた取組】

「保育作業の負担軽減と低コスト化を図る」ことを目標とし、造林作業での機械化を進めるため、大型機械（バックホウ・ブルドーザー）での地拵と成長が早いクリーンラッチコンテナ苗による、低密度植栽（2,000本/ha・1,500本/ha、1,000本/ha）の試験地を設定しました。



1,500本/ha植栽試験地

各試験地内には、それぞれ50本のプロットを設定し、植栽木の苗長・根元径の計測、獣害・枯損状況の確認、下層植生高や繁茂状況の計測や定点撮影を行い、天然更新した稚樹の樹種・本数のほか、大型機械での地拵によって懸念される土砂の流出状況についても調査を行っています。



プロットの苗長の計測

また、当署において実施した素材生産と造林の一貫作業による経費削減や、下刈作業（人力下刈・機械下刈・無下刈）の経費削減などを検証しつつ、情報発信することにより、造林作業の省略化や省力化への理解を深めてもらえればと考えています。

【今後の取組】

深刻な担い手不足が懸念される中、森林資源の循環利用を維持していくためには、造林作業の省力化・軽労化は避けては通れない課題であると認識しています。一貫作業、コンテナ苗の活用及び低密度植栽や林地未利用材の利用についても模索していければと考えています。

今後もこうした取組を地域の林業関係者と一丸となって推進して行きたいと思っております。

こんにちは 森林官です!

十勝西部森林管理署東大雪支署 鹿追森林事務所
首席森林官 辻崎 弘典



【鹿追森林事務所の概要】

私の担当している鹿追森林事務所は、十勝平野の北西部に位置する鹿追町に所在しています。

管轄する国有林は、約 2 万 ha で、大雪山国立公園唯一の自然湖であり、道内では最も高い位置（標高 810m）となる「然別湖」があります。

然別湖の最深部は約 100m、ミヤベイワナ等の生息地となっています。



然別湖

また、東ヌプカウシヌプリ・白雲山・南ペトウトルなどの登山可能な雄大な山々に囲まれ、そこには氷河期から生息し、生きた化石と言われている「ナキウサギ」が生息しています。



然別峡（鹿の湯）

このような大自然の中にある、風光明媚な温泉施設は、人気の観光スポットになっています。

【森林事務所の主な業務】

鹿追森林事務所部内は、トドマツ・アカエゾマツの人工林やカンバ・ミズナラなどの天然林が主体です。地形は比較的平坦で現場業務を行うには、好条件と言えます。

森林事務所の業務は、地況・林況調査が主体で、林道巡視や境界確認なども行っています。

特に、夏季は蜂やヒグマなどとの遭遇にも注意しながら、日々奔走しています。

【地域に根ざした国有林を目指して】

地元の小学生を対象に、森林や自然に親しみをもってもらうことを目的として、森林教室を積極的に行っています。

日頃、自分たちが生活している身近な森林に触れ、楽しく学んでもらえるよう工夫しています。

地元の小学生からは、日常生活の中では森林と接する機会が少ないとの声が多く、森林教室の開催は好評を得ています。

地域の森林や自然に親しんでもらいながら「国有林」についても知ってもらえるよう、今後も活動を継続していきたいと考えています。



森林教室の様子

もりの森の話

第32話
網走南部森林管理署
栗原 詩

若手職員のコーナーです

私はくりちゃん。

こんにちは！栗だいき「くりちゃん」こと栗原です。6月に開催した小清水町植樹祭で、この自己紹介をしてから、地域の方に「くりちゃん」で覚えてもらいました。キャッチーって大切ですね。

未来の森のために今これをやりたい！

今回は、私が昨年度から取り組んでいる「もりのめ」の活動について紹介します。「もりのめ」は、木育を行う網走南部森林管理署内の組織で、令和5年度に同署の竹本とともに立ち上げました。100万年後も豊かな森を維持していくために、教育がとても重要な役割を担っていると考えます。

それではさっそく活動紹介です。まず6月に開催された、植樹祭での森林クイズ。毎年、植樹はするけれど、どうして植樹をするのか、森や木のことを知らずに終わるなんて勿体ない！と思い、子供から大人まで楽しめるようなクイズを行いました。後日、親御さんから、子供が家族に同じクイズを出題していたと聞いて、もりのめ（芽）だな～と嬉しくなりました。



植樹祭でのクイズの様子

続いて8月の活動です。小清水町の小学生が放課後に集まる児童クラブというものがあります。その場をお借りして出張森林教室を行いました。

内容は、森林クイズと、木のコースター作りです。小清水町の森に関する内容やコースターに使う樹種の名前と特徴、年輪を数えることで木が何才か分かることなど、クイズ形式で楽しく学んでもらえました。最後はコースターに各自好きな絵を描き、オリジナルコースターを作ってもらいました。クイズの中で樹皮や種の実物を触ってもらったのですが、想像以上に興味をそそったのか、ぐちゃぐちゃになって返ってきました（笑）。子供たちの好奇心は計り知れないです。このまま森や木に楽しく触れて育ち、それらを大好きになってもらいたいところです。



木のコースターの見本たち

おわりに

私たちの生活は大きく森に支えられており、身近なところでそれを感じることができます。災害に強い土地、きれいな水や生き物のすみか、家の中にも森との繋がりが沢山あります。しかし、木材需要の低迷や林業従事者の減少等により、健全な森づくりを維持していくことが難しくなっているのが現状です。この現状を改善するためには、将来の森を支える多様な人材を育てていく必要があります。「もりのめ」は、森への興味関心を広げることで未来の森を守り、安全で豊かな地域を守ることに繋がります。

北海道森林管理局がイベントに出展しました！

MIKASA AMUSEMENT PARK OUTDOOR WORLD 2024



9月7日(土曜日)～8日(日曜日)の2日間、三笠市を会場に【MIKASA AMUSEMENT PARK OUTDOOR WORLD2024】が開催され、北海道森林管理局も出展しました。

今年で3回目の開催となるこのイベントは、アウトドアと防災をメインテーマに掲げており、北海道森林管理局では、パネル展示や実験企画を通じて、森林の役割や木の魅力、林業、山岳遭難防止などをPRしましたので、主な内容をご紹介します。

【①暮らしを守る“防風林”実験】

防風林に見立てた模型と人形、うちわで起こした風を使って、防風林の役割を学ぶ実験を行いました。

人形は、木がないと風で簡単に飛ばされてしまいますが、木があるとなかなか飛ばされません。

実験を通じて、私たちの暮らしを守る防風林の役割を学んでいただきました。



【②地元材に触れるウッドボウリングゲーム】

三笠で育った木(シナノキ・シラカバ・イタヤカエデ)を使ったボウリングゲームを作りました。

木の種類ごとに違う肌触りや重さを体感しながらゲームを楽しんでいただきました。



【③木の不思議“種飛ばし”体験】

専用キットを使って、木(ラワン)の種模型を作りました。

この木の種には2枚の羽がついており、空に投げ放つとクルクルと回転しながら舞い落ちます。

模型づくりを通じて、木の不思議さや面白さを体験していただきました。



【今後に向けて】

今回のイベント出展は、北海道森林管理局が一般の皆様と触れ合う貴重な機会となりました。

森林の役割やすばらしさ、林業の魅力を多くの皆様知っていただけるよう、これからもこのようなPR活動を続けていきたいと思っております。

各地からの便り



「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索

第14回利根別自然休養林のオオハンゴンソウ駆除活動に参加



【空知森林管理署】

8月8日に、岩見沢市内にあるレクリエーションの森「利根別自然休養林」において、特定外来生物オオハンゴンソウの駆除活動が行われました。オオハンゴンソウは、北米大陸原産の外来種で、国内では猛烈な勢いでその版図を広げています。利根別自然休養林でもその例に漏れず、元々あった在来植物を圧倒する勢いで繁殖しており、郷土の本来の自然を守るため、平成23年度からオオハンゴンソウの駆除活動を実施しています。

「夏休み子ども体験デー」を開催



【北海道森林管理局】

8月6日に、札幌第一合同庁舎にて北海道農政事務所、北海道開発局、横浜植物防疫所札幌支所、動物検疫所北海道・東北支所、北海道漁業調整事務所、北海道森林管理局の6機関で「夏休み子ども体験デー」を開催。北海道の基幹産業である農林水産業に関する体験を通じ、親子のふれあいを深め、夏休みに広く社会を知る機会と、農林水産関係施策への理解を深めてもらうことを目的に行い、子どもたち約200名の参加がありました。

下刈りの仕様に関する現地検討会を開催



【根釧東部森林管理署】

7月25日に、別海町上春別の国有林にて「下刈りの仕様に関する現地検討会」を開催しました。本検討会は、「新しい林業」の取組の一環として、造林事業の効率化・省力化に向けた下刈手法の見直しにより、北海道森林管理局造林仕様書が改正されたことを受け、林業関係者への下刈新仕様の周知を目的に行い、管内の造林請負事業者や森林組合、自治体の林務担当者、北海道局職員、当署職員など、総勢約40名が参加しました。

「森林・林業功績者」感謝状を贈呈



【網走中部森林管理署】

9月4日に、当署において「北海道森林管理局森林・林業功績者感謝状」の贈呈式を行い、北海道森林管理局長に代わり網走中部森林管理署長から株式会社遠藤組（置戸町）遠藤智子代表取締役へ感謝状を伝達しました。林野火災という非常事態において、当署及び置戸町災害対策本部の応援要請に対して迅速かつ長期間にわたり対応いただき、消火活動に多大なる貢献をされたことから、感謝の意をお伝えすることになったものです。

もり
広報 「北の森林 国有林」9月号
発行 林野庁北海道森林管理局
編集 総務企画部 企画課

〒064-8537

札幌市中央区宮の森3条7丁目70

電話 011-622-5213

HP <https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>



【今月の花 ノリウツギ】

今月はノリウツギの写真を表紙右下に掲載しました。花言葉は「臨機応変」です。

道内各地の花もそろそろ見納め、これからは紅葉が楽しい季節ですね。



今月の表紙